

あしよろ・ハードサポート通信

今年は本当に振れ幅が大きな夏でした。1番草収穫時期は思わずストーブを点けたくなるほどの冷夏、7月末以降は最高気温日本一を記録するほどの蒸し暑い猛暑、ヒトも牛もすっかりバテバテの気候が続きました。特に8月上旬は町内のバルク集乳総量が日に日に落ちていき、多くの牧場で暑熱ストレスによる乳量低下、乳房炎の発生が見られていました。

◆ サシバエが出てきています！



写真) サシバエ。体長は0.3~0.8cmと小さく、体と羽根が正三角形の形に近い。

暑熱ストレスがやわらいで過ごしやすい気候になってくると、サシバエが目立ってきます。サシバエは体長1cmにも満たない小さなハエで、針のように鋭く尖った口を持っているのが特徴です。こんなに小さなサシバエが牛に大きなストレスを与えるのは、その尖った口で刺されるととても痛いためとされています。



写真) 牛体に付いているハエ。針のように尖った口が特徴。

サシバエが発生すると牛の搾乳時の落ち着きがなくなったり、生産乳量が落ちたりすることに加えて、牛白血病などの伝染病、黄色ブドウ球菌(SA)の乳房炎を媒介することもわかってきています。

牛が激しく尻尾を振る、皮膚をピクピク震わせる、腹のあたりを蹴るなどの落ち着きのない行動をとっていたり、フリーストールや放牧などの放し飼いの環境で、数十頭が一か所に密集して立っているときなどは、サシバエが発生して牛にストレスを与えているサインです。

◆ サシバエの駆除

サシバエは牧場内で生まれて、牧場内で移動しながら生活します。そのため、まずは幼虫(ウジ)駆除がサシバエを減らす一番の近道になります。ウジは牛舎内の柱の足元、飼槽や水槽まわり、堆肥場など、湿ってジクジクした場所に発生します。

このような発生ポイントをこまめに掃除することが第一歩で、その上でウジを殺す薬剤を2週間に1度をめやすに定期的に散布すると、さらに効果的です。

成虫対策には殺虫剤散布の手段がありますが、発生元のウジ駆除を徹底する方が、サシバエの絶対数を減らすことができます。

また、成虫は昼間、牛舎へ飛んできて牛を吸血するなど活動し、夜になると牛舎脇の草むらへ帰っていきます。そのため、牛舎周りの草を刈って休息場所をなくすことも、本当に大きな効果が見込めます。



写真) 大規模育成牧場の牛たち。

イヤータグ型駆除剤が両耳に付いています。

放牧されている牛には、イヤータグ型外部寄生虫駆除剤を耳に付けることも対策のひとつです。このイヤータグ型駆除剤には、およそ半年間の効果があるそうです。

これらの殺虫剤や駆除剤は、ゼノアックさんを始め、薬屋さんが各種ラインナップをお持ちで、哺乳類には毒性が低いものが揃っていると聞いています。出入りの薬屋さんに問い合わせてみてはいかがでしょうか。

.....

★8月18日に NOSAI 松山先生を講師に乳房炎の原因菌と治療についての勉強会が開催され、夜の会にも関わらず 40 名近い組合員さんの参加がありました。農場での乳房炎対策、乳質改善に活かしていただけたらと思います。

資料が必要な方は、JA 営農部までお声かけください。

☆来月は雪印種苗(株)北海道研究農場の谷津英樹主事に講師をお願いし、9月25日(金)13時から「草地の植生改善について～メリット・方法・現地事例～」の題目で勉強会を予定しています。皆さまのご参加をお待ちしています。

★これから春に向け、可能な限り毎月1回の勉強会を企画していきたいと考えています。勉強会テーマのご希望などがありましたら、どうぞお聞かせください。

.....

連絡先 ・ JA 営農部 (電話)
・ 村上：(携帯) 090-6264-6571、(Email) murakami@herdsupport.com
・ 久富： (Email) hisatomi@herdsupport.com
・ ハードサポート(株)：(FAX) 011-261-8101

9月の足寄での業務予定日 村上：9/24～30 の平日 5 日間
久富：9/9～16、9/24～29 の平日 10 日間
※日程変更になることもありますが、ご了承ください。